

コレクション展 2010- I

収蔵庫開帳！ 広島ゆかりの作家たち 選・都築響一

当館コレクション作品を新たな視点から紹介する試みとして、ゲスト・キュレーターに都築響一を招き、その独自の視点から構成された展覧会を開催します。

都築響一は、現代美術、建築、デザインに加え、生活や文化に関わる広範な分野を対象とした執筆活動、書籍編集を続ける編集者です。大学在学中からライター活動を始め、1986年まで「ポパイ」「ブルータス」誌において現代美術、建築、デザインを中心とした記事を担当しました。その後、80年代の世界の現代美術を網羅した全102巻の全集『アート・ランダム』を刊行。93年には東京の生活感あふれる居住空間を撮影した写真をまとめた『TOKYO STYLE』を発表し、一躍注目を集めました。また、日本各地に点在する秘宝館や村おこし施設などユニークなスポットを集めた写真集『ROAD SIDE JAPAN 珍日本紀行』にて、第23回木村伊兵衛写真賞を受賞するなど、写真家としても高い評価を受けています。2001年には、閉館した秘宝館の展示物を横浜トリエンナーレで展示するなど、国内外の展覧会にも出品し、美術作家としても活動しています。

今回のコレクション展においては、当館のコレクションを通してしか見ることのできない、広島にゆかりのある作家たちの作品を中心に取り上げます。それは、都築がこれまでに注目し、探求してきた、私たちの身近な所に存在しながらも見落とされがちな、実は個性豊かで独創性に富んだ活動を美術館のコレクションの中に見出そうとする試みです。

そして、ともすると似通いがちになる公立美術館のコレクションとそれを紹介する切り口に対する批評精神の表れであり、コレクションの新たな魅力を示すとともに、彼の編集者としての姿勢を明快に伝える展覧会といえます。

【会期】 2010年4月24日(土)～7月11日(日)

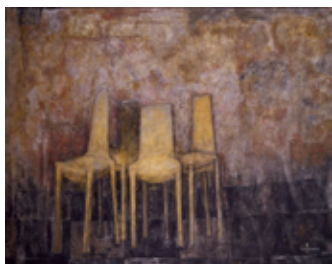
【開館時間】 午前10時～午後5時 ※5月3日は午後7時まで開館 ※入館は閉館の30分前まで

【休館日】 月曜日(祝休日にあたる場合開館し、翌平日休館)

【観覧料】 一般 360(280)円、大学生 270(210)円、高校生 170(130)円

※()内は30人以上の団体料金 ※小中学生、65歳以上等無料

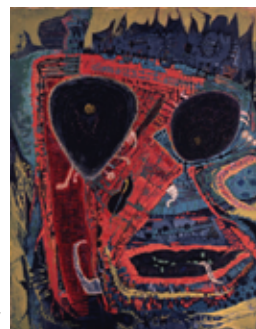
<出品作家> 入野忠芳、岡崎勇次、岡部繁夫、沖本賢二、金光松美、上永井正、佐古昭典、鈴木健之、高橋秀、竹沢丹一、棚谷勲、たべけんぞう、佃義暁、土屋幸夫、殿敷侃、名井万亀、中井恒夫、灰谷正夫、范叔如、福井芳郎、本田克己、増田勉、松尾裕人、山路商、依田順子 (予定)



高橋秀《四つの椅子》1960



名井万亀《漁獲》1944



灰谷正夫《侵蝕》1957

広島市現代美術館 (学芸担当：松岡 広報担当：後藤、鈴木)

〒732-0815 広島県広島市南区比治山公園 1-1

TEL/ 082-264-1121(掲載用)・082-264-1146(問い合わせ用・学芸直通)

FAX/ 082-264-1198、E-MAIL/ hcmca@hcmca.cf.city.hiroshima.jp